

意識してみませんか？

ちょっとした
ことですが...



小学校の先生へ・・・

小学生の段階からできるようにしておくと、スムーズに中学校生活に移行できます。

家庭学習の習慣

「復習やテスト勉強の仕方が分からない。」という声が中学生から聞かれます。
家庭学習の方法なども具体的に指導しましょう。

時計をみでの行動

小学校では、先生が「次の授業は 分からね。」と指示することもあります。中学校では、日課表通り授業が始まります。時計を見て、自分で行動することが大切になります。

場に応じた行動・話し方

あいさつ、言葉づかいなど基本的な生活習慣を身につけましょう。

授業の受け方のマナー

授業の受け方やマナーなど校内の先生方と話し合い、共通理解を図りましょう。

中学校の先生へ・・・

新1年生は、不安と期待で中学校生活をスタートします。
でも、「わからないこと」や「できないこと」がたくさんあります。

親身なふれあい・声かけ

小学校の時は、わからないことや困ったことがあれば、担任の先生が頼りでした。
先生から積極的に話しかけてあげましょう。

丁寧な言葉づかい

「中学校の先生は言葉づかいが乱暴だ！」と感じる新1年生が意外に多いようです。

細やかな指導・連絡

新1年生は、中学校の生活のリズムがわかるまでは毎日緊張の連続です。
「これくらいのことはわかるだろう・・・」では、困ってしまう子どもたちもいます。
日課の板書や説明など、最初はきめ細かく分かりやすい指導を心がけましょう。

こんな情報も参考に・・・

国立教育政策研究所生徒指導研究センター リーフレット「中1 不登校の未然防止に取り組むために」

URL・・・<http://www.nier.go.jp/a000110/1panf.pdf>

長野県教育委員会指導資料「中1 不登校への対応」

URL・・・<http://www.pref.nagano.jp/kenkyoi/jouhou/seitosidou/sidousiryou/no80/index.htm>

文部科学省「不登校への対応について」

URL・・・http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/futoukou/main.htm

お問い合わせ先・・・長野県教育委員会事務局 教学指導課心の支援室

TEL: 026-235-7436(直通) E-mail: kokoro@pref.nagano.lg.jp

小学校から 中学校へ

スムーズな移行を目指して

全教職員で 今 できることから 《実践例》

小学校 6 年生

Q 中学校について思うことは？

- ・部活が楽しみ
- ・新しい友だちができるのが楽しみ
- ・友だちはできるかな？
- ・勉強は難しいの？
- ・先輩はこわくないかな？

中学校 1 年生

Q 中学校へ入学して思ったことは？

- ・先輩が優しくてよかった
- ・部活が楽しい
- ・担任がいつもいるわけではないので、聞きたいことがすぐに聞けない
- ・日課がよくわからない
- ・勉強が難しい

小学校 6 年から中学校 1 年にかけて、不登校児童生徒が 約 3 倍に増加します。

例えば、中学校の「教科担任制」を一つ取っても、入学したばかりの生徒には大きな変化です。このような違いに戸惑い、不安を抱く生徒も多くなります。

小学校から中学校へスムーズに移行するために、小中連携について考えてみましょう。

小学校から中学校への移行をスムーズにし、子どもたちが安心して、楽しい学校生活を送ることができるように・・・

1、子どもたちの不安を解消するために（実践例）

教科担任制、50分授業など、小学校との違いに戸惑うことがあります。小学生の不安を取り除き、期待へと変えていく取り組みを行きましょう。

小学校6年生への進学情報の提供

体験入学（授業参観）

小学生が中学校へ行き、授業を参観したり、中学の授業を受けたりすることで、中学の学習に対する不安を軽減することに役立ちます。



部活動参観（体験入部）

小学生の多くが興味を持っている部活動の参観を通して、中学校へ向けての期待をふくらませることができます。

心の相談室等の見学

入学前に相談員と話しておくことで、困った時にすぐ相談に行くことができます。

ようこそ先輩

中学生が小学校へ行き、中学校の様子を話したり、小学生の質問に答えたりします。生の話が聞けるのでとても参考になります。



中学校ってどんなところだろう・・・



中学校説明会

校長先生の話の聞いたり、生徒から中学校の生活について説明を聞いたりします。中学校と小学校の違いについても取り上げると理解が深まります。

中学校文化祭へ招待

小学生が中学校の先輩の活躍を知ることにより、中学校への憧れを抱くことができます。また、他校の6年生とも顔を合わせる機会になります。

2、児童・生徒をより理解するために（実践例）

小中学校職員の相互理解

中学校区での小中合同研修会

小グループによる情報交換（教科・児童生徒の様子）によって、お互いの様子を理解し合い、小中を通じて同じ目標に向かって協力し合うことができます。



お互いの授業参観

小学校の先生は中学校の、中学校の先生は小学校の授業参観を行い、それぞれの学校の様子や違いを理解し、小中のつながりの中で、子どもたちの成長をとらえることができます。

児童生徒についての情報の共有

支援シートの活用

小学校から送られた情報は、確実に引き継ぎ、不明な点は、小学校の先生に確認します。

資料「中1不登校への対応」の中に、支援資料があります。（裏面参照）

養護教諭

心の相談員等の 中学校1年授業参観

小学校での支援情報が活用されているか、中学校での生徒の様子を参観し、アドバイスをしてもらいます。

小中連絡会の充実

小学校から具体的な支援方法を伝えることで、入学当初から適切な支援ができます。特に支援が必要な児童については、入学前に小中合同で支援会議を行います。

人間関係づくりの能力を高める

新しい友だちに期待をしつつも、うまく関係を築くことができるか不安を抱く子どもたちもいます。小中学校どちらでも行うことが大切です

友だちと上手くやっていけるかなあ・・・



名前を覚えよう

中学校区の6年生が集まって名前カード交換会。新しい友だちに対する期待をふくらませ、不安を取り除くことに役立ちます。

この他に「質問じゃんけん」、「私は誰でしょう」などの人間関係づくりゲームが効果的です。



スクールカウンセラー（SC）との連携

SCを交えたチーム支援

児童・生徒にかかわる複数の教職員でチームを結成します。必要に応じて、SCも加わります。

SCとの打ち合わせ

事前に、来談者の様子をSCに伝えておくことでカウンセリングがスムーズに行える場合があります。

SCによるコンサルテーション

児童生徒に直接支援するのは、教職員です。悩みや課題を持っている児童生徒に寄り添いながら、どのような支援をすればよいか相談します。

